

〔撮壤集〕下支體爪シ和名 甲コウツメ

〔倭訓栞〕前編十六つめ 爪をよめり、角芽といふにや、爪甲とも見ゆ、爪は長くなれば、剪棄るものなるをもて、神代より棄物キテといひ、又收るのりも見えたり、侍中群要に、御爪切了令埋御生氣方と見ゆ、土佐日記に、爪ののびたるを見て、日をかぞふと見ゆ、また異邦にては、賤しき人は爪をとり、貴き人は爪とらでながし、今もしかりとぞ、又文官は爪をきらず、武官は爪をきるともいへり、

〔和漢三才圖會〕十二支體爪早音 甲音 又音 筋退 和名豆女

爪者手足指上甲也、内經云、爪甲者筋之餘、膽之外候也、爪厚色黃者膽厚、爪薄色紅者膽薄、爪堅色青者膽急、爪栗色赤者膽緩、爪直色白者膽直、爪惡色黑者膽結、

氣味甘鹹 治衄血細刮吹之 淋病及尿血水燒灰 針折入肉及竹木刺者刮爪細末用酸漿搗 目生花腎爪細末和乳點

之 字彙載說文云、爪覆手取物曰爪、爲抓爪之爪、非手足甲、作又字亦誤也、

按爪卽象形爲正字、故从爪字甚多也、別有爪字音掌 疑所謂覆手取物、抓之本字是矣、蓋爪爪以相似誤註者乎、

甲者草木初生之孳子也、又介甲之甲也、人爪與介蟲甲略似、故稱之爪甲耳、  
又興瓜 又者古之手字也、二點象爪形會意 凡治手足爪曰蚤、曲禮云、不蚤鬚者是也、

〔日本書紀〕神代 諸神歸罪過於素戔嗚尊、而科之以千座置戶、遂促徵矣、至使拔髮以贖其罪、亦曰拔其手足之爪贖之、已而竟逐降焉、

一書曰、略 卽科素戔嗚尊千座置戶之解除、以手爪爲吉爪棄物、以足爪爲凶爪棄物、乃使天兒屋命掌其解除之大諄辭而宣之焉、世人慎收己爪者此其緣也、

〔日本書紀〕十六武烈 三年十月、解人指甲使掘暑預、

〔源平盛衰記〕十二 教盛夢忠正爲義事